

石神遺跡の木簡

石神遺跡から多くの木簡が出土しましたが、

(表) 乙丑年十二月三野国ム下評

(裏) 大山五十戸造ム下ア □人田ア児安

と書かれた木簡には驚きました。乙丑年は天智4年(665)にあたります。近江遷都以前の古い木簡です。

「ム」「ア」は「牟」「部」の略字。「ツ」も片仮名ではなく、「津」などの略字であると考えられています。評(コホリ)は後の郡、「五十戸」(サト)は後の里のこと。「国一郡一里」という律令時代の地方行政組織の前身が、すでに665年段階で整っていたこと



を示した木簡です。『日本書紀』によれば、646年の「大化改新詔」で国郡里制の整備を指示しています。しかし『日本書紀』の「改新詔」の部分は後世の知識によって改変されており、その時点で国郡里制が施行がされたと考える古代史研究者はまれでした。今回の木簡で直ちに「改新詔」の

信憑性が増すわけではありませんが、再検討は必要となってくるでしょう。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 市 大樹)